

平成 24 年度第 3 回野洲市総合計画外部評価委員会 会議結果

日 時 : 平成 25 年 3 月 28 日 (木) 午後 2 時 00 分～3 時 30 分

場 所 : 野洲市役所 本館 3 階 第 2 委員会室

出席委員 7 名

(兵藤委員長、中野委員、菊地委員、東郷委員、豊田委員、松並委員、村松委員)

◇ 意見交換

第 1 回委員会での行政評価のあり方についての意見および第 2 回委員会での外部評価のあり方についての意見を踏まえて、野洲市における新たな外部評価のあり方について事務局より以下のとおり提案を行った。

- ・ 従来の「過年度に実施した事業への振り返り型評価」から「現年度の進捗中の事業に対し、①年度当初、②中間、③年度末の 3 つの時点で評価する事業寄り添い型評価」に評価時点と手法を見直すことを提案。
- ・ すでに完了した平成 24 年度事業を振り返るのではなく、平成 25 年度に実施されている事業を同じ時間軸の中で事業の進捗に寄り添い、事業本来の目的や効果などに注視しながら、年度末の振り返り評価に結び付けていく形態を導入することを説明。
- ・ 利点として、各委員の事業に対する接点が増え、事業に対する熟度が向上すること、また、進捗中の事業への中間評価を設けるため、委員会の意見をリアルタイムで事業にフィードバックすることが可能となることを説明。

事務局からの提案を受けて、評価の流れなど、委員との意見交換を行った。

<委員からの主な意見>

- ・ 事業数が多いと内容の薄いものとなる懸念がある。この方法の場合、1 事業の評価に一定の時間を要することが見込まれるので、評価対象は事業タイプごとに絞り込んだ方がよい。
- ・ ルール化されている事業など、事業によっては外部評価の成果が出にくいものもあるため、対象とする事業の抽出には事務局による一定の判断が必要。野洲市独自の取組みを主としながら、独自事業、一般的事業など、異なるタイプの事業を抽出すべきである。
- ・ モデルとしての取組みであるため、作業イメージを固めすぎず、手法の時点修正も含めた検討としてよい。
- ・ 市民目線で現場を見ると、ひとつの事案が複数部署に及ぶ場合に、行政の横の連携不足を感じることもある。行政の気づかない側面を違う視点から示すことで、横の連携を強化する評価、職員と自由な意見交換のできる評価の場としたい。
- ・ 事業を可視化するための数値や指標など、行政とは違う目線からの気づきを与えられないか。事業年度内での気づきを与えられないか。
- ・ 各委員が事業の理解を深めるため、行政の現場だけではなく、市民の声、市民の評価について、事務局、事業担当課から積極的に情報提供をしてほしい。

- ・評価内容が市民から見てわかりやすいものとしたい。「のびのび度」、「わくわく度」、「しっかり度」などの感覚的に市民に伝わりやすい指標を用いてはどうか。
 - ・行政サービスは行政の現場と市民の間に存在する。この外部評価は不正を監視するものではなく、行政以外の視点から事業の点検、価値の再発見、価値の向上をめざすものとしたい。外部評価は職員の業務をサポートするものと位置づけて、評価、ヒアリングは質の良い情報交換の場としたい。企画部門が様々な部署と連携し、職員にとっても外部評価を良い意見聴取の場と認識してほしい。
- などの意見をいただいた。

◇今後の進め方について

- ・評価手法も含めた様々な意見交換を踏まえて、新たな「現年度事業への寄り添い型評価」の手法をモデル的に進めることで各委員に了承された。
- ・平成 25 年度はモデルとして3から5程度の事業数で評価手法の検討も踏まえながら進める。
- ・次回委員会では、各委員のイメージを統一するための年度を通じた評価のサンプルを事務局より提示する。今回の委員会での意見を参考に検討した評価手法の確認を行う。
- ・事業の選定は平成 25 年度ロードマップ案を基に、事務局が1次抽出した案を元に各委員と意見交換をしながら評価対象事業を抽出する。

◇次回会議日程について

○平成 25 年度第 1 回野洲市総合計画外部評価委員会

日時：平成 25 年 6 月 20 日（木）午後 2 時 30 分から

場所：野洲市役所 本館 2 階 庁議室

内容：・評価イメージを基にした外部評価について意見交換

・抽出事業の委員ヒアリングの実施

・平成 25 年度評価スケジュールの確認

以上